



- 2. 総会並びに所長研修会
- 3. 第61回静岡県保育研究大会
- 4. 各分科会報告
- 12. 県保育研究大会に参加して
- 14. 新規採用予定職員研修会
- 16. 新卒採用者アンケート
- 17. 令和3年度施設長研修会
- 18. 新規採用職員研修会
- 19. 青年部会総会・研修会
- 20. 委員会報告
- 22. 支部だより
- 23. 保育川柳入選発表

令和4年度

静岡県保育連合会総会 並びに所長研修会

開催

期日 令和四年四月二十六日
会場 静岡市民文化会館

令和四年四月二十六日に静岡市民文化会館において「令和四年度静岡県保育連合会総会並びに所長研修会」は、静岡県健康福祉部少子化対策担当理事瀬寄浩二様、静岡県社会福祉協議会常務理事高橋邦典様、静岡県健康福祉部こども未来局こども未来課長鈴木安由美様を来賓としてお迎えし、開催されました。昨年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、座席は十分に間隔をとり、加入園六百五十二団体中五百二十四人の出席（委任状出席二百七十六人）により開催されました。

静岡県保育連合会総会では、静岡市一番町保育園の海野美代子副会長が司会を務められ、土山雅之会長、来賓挨拶の後、静岡市城北保育園長松田剛氏を議長に、浜松市立可美保育園長池内結子氏を副議長に選出し、総会議事が進行されました。土山会長から、来年度の静岡県保育連合会の一般社



だき、ご意見を頂戴したい、と挨拶がありました。その後、講師に

学校法人静岡豊田学園静岡豊田幼稚園の宮下友美恵園長先生をお招きし、「子どもの学びをつなぐ幼保小マで所長研修会が行われました。幼保小の接続は、半数以上が行



団法人化を目指しているが、基本的には現状の体制を維持し、事業、活動内容も現状を踏襲しながら拡充していく予定であり、十二月に臨時総会を予定しているのでは、是非出席してほしいと挨拶がありました。



解されてしまっており、連携の手がかりとして十分に機能していない場合もあると教えていただきました。

今後の目指す方向性は、幼児教育の質に関する認識を共有することや地域における園の役割と専門機関との連携であり、全ての子どもへのウェルビーイングを高めるカリキュラムの実現が大切になっていくと学びました。文部科学省が令和四年三月三十一日に示された「幼保小の架け橋プログラムの実施に向けての手引き」を参考にし、各市町や学校単位で、地域に合わせ、全ての子どもたちにとって有益な幼保小の連携を目指していきたいと感じた施設長研修でした。

事の交流にとどまってしまうっており、幼保小の架け橋プログラムの編成・実践には至っていないことがほとんどであることや、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」が到達目標と誤

第六十一回 静岡県保育研究大会

令和四年一月二十八日(金) 沼津市

令和三年度大会は異例づくしとなったので、まずは開催形式を簡条書きで記します。

- ① 前年度、本大会は、新型コロナウイルス感染症蔓延の影響により中止となったため、二年度ぶりの開催となりました。
- ② 東京オリンピックの影響により、開催時期が、従来の五月から一月に変更となりました。



- ③ 新型コロナウイルスの感染拡大の可能性を睨み、代替手段としてリモート開催も視野に入れて準備を進めてきましたが、年明け頃から感染が拡大し、集合研修が難しい状況となりました。
- そのため、今回の研究大会は、助言者・



議長・発表者等は、本来の会場であるプラザヴェルデに集合して発表等を行い、参加者は画面越しに視聴する形で開催されました(事前に作成した発表動画を流す発表者もありました)。

- ④ 例年、午後のプログラムは参加者からの質疑応答をもとに会場内で議論が交わされましたが、参加人数や通信環境を考慮すると議論は難しいと思われました。そのため、各分科会とも、発表及び助言者による講評のみ行いました。これにより、午前、第一、三、四、八分科会、午後、第二、五、六、七分科会という形で、四会場のみ使用して、計八分科会が行われました。

本大会は、「すべての人が子どもと子育てに関わりをもつ社会の実現をめざして」という主題のもと開催されました。

このテーマは以前から引き継がれてきましたが、その時代背景は、この二年余で急展開されたものでした。

すなわち、日本のみならず世界中が新型コロナウイルス感染症という危機に晒される中、保育所や認定こども園等の大切さが再認識されました。一方、新型コロナウイルスへの対応のため、保育現場全体が、これほど困惑したことはなかったでしょう。また、様々な感染症対策が、子どもの育ちを阻害しているのではと懸念する声も聞こえてきています。

こうした中にあっても、保育関係者が自らの使命と役割を自覚し、保育の社会的意義と役割、新しい生活様式の中での保育実践などについて議論を深めるために、リモート形式による研究大会という新機軸を試みました。

機器の不具合等も一部ありましたが、スタッフがこの二年間で培ってきたリモート研修の技術や当意即妙な運営の上に、例年と変わらない熱のこもった発表が展開され、今後の保育の質と専門性の向上を目指すという大会趣旨を共有できたと思います。

初めての試みではありましたが、本大会は成功裏に終えることができたと評価できると思います。これも、多忙な中、惜しみないご助力を頂いた関係各位のおかげであることと深く感謝申し上げます。

第一分科会

テーマ 【新たな時代の保育実践

～あべこのいふもこむけて～】

発表者 ①富士市立浅間保育園

保育士 勝呂 良太

②島田市 認定こども園

エルフのゆめ

副主幹保育教諭 山崎早恵美

③浜松市 どんぐり保育園

保育士 長谷川純子

議長 静岡市立丸子こども園

園長 新貝 慶子

助言者 静岡産業大学部

教授 漁田 俊子

記録者 三島市 恵明キッズ

フコウビレッジ

園長 杉村 太輔

発表(一) 子どもの気づきやつぶやさから、

心を動かす遊びの展開

富士市の公立保育園・認定こども園で行われている、地域別公開保育を軸に、遊びから学びへと結び付けられる保育の実践がどのように行われているのかを市内公立園全体で検証をした。アンケートから得られた課題から保育者の子どもの姿を深く読み取る力をつけることを目的として保育の実践記録を書くことに着目した。その記録を考察することによ

り、子どもの姿が明確化、見えるようになり保育者の保育の手立てを考える意欲が生まれ、そして子どもの遊びを展開していく意欲・主体性につながるようになった。

発表(二) 実践を振り返り子どもの育ちを語り

合える風土作り～KJ法の活用は職

員の相互理解にどのような効果をも

たらすのか？

園内研修におけるKJ法の活用は、考えの整理や発言の充実等に効果的であった。一方デメリットとして、語り合いの困難さを助長することが考えられた。園内研修ではそれらを生かして進めることが重要である。デメリットについては、ファシリテーターの介入が語り合いに様々な良い影響を齎すことや、アイスブレイクの緊張緩和等の効果により解消されるのではないかと考えた。

「ただ仲の良い職員集団」ではなく、組織の中でルールを守り、プロ意識を持った上で考えることを前提とし、互いに語り合える職員集団を目指すことが求められる。

発表(三) 子どもの絵を聴く保育～子どもが思

いを伝え合う土台作り

どんぐり保育園では、「生きる力を育む保育」を保育理念の一つに掲げている。生きる力は他者への発信力が必要と考え、こどもが保育者へ安心して発信できるよう丁寧に保育を行っている。発信手段の一つである言語の発達過程にある子どもたちに対して、子ども

の絵の中身を聴くことで、その子の感動を知る手掛かりを探った。子どもの思いの詰まった表現である絵を聴くことにより、子どもの自分の思いや感動を発信する意欲を高め、さらには、言葉、文字を覚えていくことの一助にもなりうると考えた。

助言者より

エピソード記録を取る上で重要なことは、背景・エピソード・考察の三つを必ずそして分けて書くことである。ドキュメンテーションについては保育の質を高めるといふ側面と、保護者対応に使えるという側面があり、園によってどちらの側面を利用するのかを予め決めておくことよい。

KJ法についてファシリテーターの育成は静岡県教育委員会が力を入れて取り組んでおり、家庭教育の分野から「つながるシート」を作成しているため参考にするとよい。

絵を聴くという保育者が得意なものを保育に生かしていく様子の報告から、子どもだけでなく、保育者も共に育つ、共育の様子も交えた発表であった。声掛けによって子どもが育つ、遊びが展開する、保育の本質に触れていたと思う。



第二分科会

テーマ 【配慮を必要とする子どもや

家庭への支援に向けて】

発表者 ①伊東市 伊豆栄光荻保育園

副主任 高橋 朋美

②静岡市 あゆみ第二こども園

保育教諭 林 真人

③御前崎市立さくらこども園

副園長 高塚 尚子

議長 袋井市 ルンビニあゆみ園

園長 野中 徹

助言者 静岡大学教育学部

教授 香野 毅

記録者 沼津市立戸田こども園

園長 朝香美智代

発表(一) 保育士同士の連携とPHOTOを

通してつなぐ保護者支援を目指して

職員間で子の理解と連携を深めるため、また、子の成長の喜びを保護者と共有することで保護者の養育力向上に繋がる支援に結びつけるため、AGE教育目標を導入し、PHOTOを用い、ポストイットで子の気持ちを示したエピソード記録等を作成した。その実践から、子の状況や思いなどを職員間で共有することができ、チームワークがさらに深まることにより保育に変化が生まれた。

また、それらの目標や記録は、保護者との話し合いでも活用し、保護者との繋がりが一

層深まる効果のある取り組みとなった。

発表(二) 支援の仕組みづくりと保護者の思い

子の支援に対する担任の抱え込みや職員への対応のばらつきなどに着目し、園全体で支援していく仕組みづくりと、子に対する保護者と職員の認識について探究し、今後の家庭支援の道しるべとなる取り組みを行ってきた。

仕組みづくりでは、職員間で話し合いの場を持つことで、自身の保育の振り返りや多様な視点から支援策が検討でき、支援に深みが出て園の保育の質の向上に結びついた。

また、保護者、職員にアンケート調査を実施し、認識の違いを把握した上で、保護者コミュニティセッションマニュアルを作成した。双方とも、実践継続を課題としている。

発表(三) 計画的・組織的な支援について

子の個性を良さとして伸ばしていく保育、家庭とともに子の成長を喜び合える保育を目指し、その手立てとして、個別支援計画に基づき簡潔でわかりやすい個人記録の見直しを行った。子の良さに着目することで職員の視点が広がり、記録をとることで子により関心が向けられ理解が深まった。そして、集団で認められ必要とされ達成感を味わう経験が、子自身を変えていくということを、実践から改めて学ぶこともできた。

集団の中で、個の支援のあり方について評価し、次に生かす取り組みは、クラスの育ちや運営にも変化をもたらせた。

助言者より

写真やビデオを用いたエピソード記録は、映像から保育者自身の姿に気づきがある。このような取り組みは、これからのバリエーションに期待が出来る。保護者と保育者の認識の違いについては、園と家庭、環境が違えば表われは当然違うと捉えた方がよい。保育現場で「みんな一緒」は「美しいが苦しい」：同じ場で同じ素材は用いるが、同じゴールは求めないという形態もある。家庭支援については、相手の状況を理解し、相手に伝わることに置き換えて伝えることができているかが大切である。研修として、個への対応が全体の質を高めることに結びついていく取り組みは、実のあるものであることを示している。



第三分科会

テーマ 【保育者の資質向上を図る】

発表者 ①富士市 ひな保育園

園長 中川美智子

②焼津市 焼津南保育園

主任保育士 植野 ゆか

③掛川市 おおぶち保育園

主任保育士 田中 松美

議長 富士宮市 野中こども園

副園長 中村 章啓

助言者 常葉大学保育学部

教授 山本 睦

記録者 富士市 緑ヶ丘保育園

園長 内藤 朝日

発表(一) 保育者の主体性と意欲を高める園内研修

保育者の資質向上の取り組みの一つとして園内研修があり、保育者が主体的に園内研修に取り組むことが出来るよう、研修のあり方やPDCAサイクルを意識しているひな保育園。保育士が保育を楽しむ気持ちを持つと、子ども達の学びは一層充実できる。子どもと共に学び続けるという保育士の姿勢を大切に、日々実践を積み重ねている。園内研修を通して職員間の交流が活発になり、なんでも話し合える雰囲気になった。その風土作りがある事で保育士が子どもの発達や思いをとら

える力を持つことに繋がっていると考える。

発表(二) 実習指導から考える保育の質の向上

焼津南保育園では、「焼津市の子どもたちは、私たちの手で」を合言葉に、平成二十八年度から保育実習の受け入れをテーマに研究を行っている。養成校への指導マニュアルを整理していくことで、自分たちの保育をどう伝えていくことが求められているのが明確になった。自分たちの保育を言語化し作成した指導マニュアルに従って実習受け入れをしてみると、実習生も私達と共に保育にあたる同僚だと気付かされた。お互いの気づきを交換し学び合い、今後も実践の中で見直しを進める取り組みを続けていきたい。

発表(三) 園内組織と職場環境の改善から保育者の資質向上を図る

おおぶち保育園では、保育者が主体的に研修に取り組めるよう話し合いや語り合いの風土作りをすることで資質向上を図りたいと考えた。話し合いの風土作り、語り合いの風土作り、職場環境の改善を行うことで働く意欲を高め、職員間のコミュニケーションの活性化を行う事が出来た。職場環境の改善を行ったことで中堅職員がファシリテーターとしての資質を身につけつつあり、その他の職員は園内研修に主体的に取り組む姿や意見を発言する姿が多く見られるようになった。今後話し合いを進めながら資質向上に繋がる取り組みを行っていききたい。

助言者より

子ども達に求められる学力が今は変わってきた。その変わった所に繋がる基本的な経験を、子ども達にどれだけ積ませてあげられるかが就学前の施設に求められてきている。目の前にいる子ども達が、数年後に経験すると思われる様々な学習や求められる能力に対して、見通しを持って指導計画を立てられるかが保育の質の高さの一つだと考え、質を高める事を考えた時に保幼小連携が重要になり、連携を考えた上で計画を立て、それに求められる経験を積ませてあげられるよう保育者が対応すれば、保育の質も保育者の質も向上すると考えている。



第四分科会

テーマ 【地域の子育て家庭への

支援の充実にもつて】

発表者 ①袋井市 ルンビニあゆみ園

主幹保育教諭 早川 陽子

②吉田町立わかば保育園

主任保育士 塚本 美樹

議長 藤枝市 たちばな保育園

園長 井原 佳明

助言者 静岡福祉大学こども学部

教授 永田恵実子

記録者 藤枝市立前島保育園

園長 河村 明子

発表(一) コロナ禍でのハッピー子育て

「保護者に笑顔で子育てをしてもらい、子育てを通して子どもの成長に幸せを感じてほしい」との思いをもって日々保育をしているなか、コロナウイルス感染拡大により、子育て環境は以前と大きく変わってきた。コロナ禍における子育て環境の変化について保育園と地域の子育て支援センターを利用する保護者にアンケートを実施し、子育てを楽しむ支援を考えた。コロナ禍で子どもと向き合う時間が増えたからこそ見えた悩みや不安もあった。各年齢の発達の目安や、困った事への園での対応方法を示したり、家庭でできる年齢にあったあそびを紹介するおたよりを作成

し、園だけでなく地域の子育て支援センターの利用者の家庭にも届くようにした。今後も、「ハッピー子育て」の援助ができるよう、相談・対話を大切にし、子ども達の年齢ごとの発達への理解を促していきたい。

発表(二) 保護者の気持ちを支え

喜びを感じる子育てのために

公立四園では、子ども達が生き生きと遊び、成長していくとともに保護者が安心して子育てができる環境作りを心がけている「子育てが楽しい」と思えるように子ども達の姿を伝える方法や、相談しやすい雰囲気作り、保育の発信の仕方考えた。在園家庭に向けた支援では、園内環境の充実を図り、親子で楽しむコーナー作り「イヤイヤ期」について簡単に面白くまとめたポスター掲示などをおこなった。家庭に向けた発信では、園解放についてアプリを活用したり、子育て支援センターや児童館と連携し保育園や子どもの様子を地域に発信した。コロナ禍での取り組みとして、YouTubeの活用も行った。各園持ち回りで遊びの紹介や手作りおやつ紹介など、子育て家庭に向け、保育園を知ってもらえるツールにもなっている。発信することの重要性を感じ、職員の意識も高まってきている。今後も子育て家庭に寄り添いながら耳を傾け様々な形で支援を充実させていきたい。

助言者より

「子育てが楽しくなる」という事は簡単な

ことではなく、もともとの親の素質やそこにある環境も影響を与えているので、これらを考えて支援していかなくてはならない。年齢別の指標にもなり、とても有効なものと言え。また、悩みに応えるという点も「保護者がみんな悩んでいるんだ」と自分だけではない事にほっと安心する材料になる。また、おもしろおかしく作成された「イヤイヤ期」のポスターも親の気持ちを安心させる。みんなが知りたいと思っていることが示されていくことで、次へとつながっていく。今回の発表では、情報の提供の仕方についてどうしたらよいかをいろいろと提示してくれた。ネットを使っての配信は、園に出来ない親にも手が届き、支援センターとの連携では心配な親にも手が届くことになる。



第五分科会

テーマ 【子どものより良い育ちにむけた

関係機関とのネットワーク】

発表者 ①裾野市 富岳キッズセンターあい

主任 杉山 愛子

②静岡市 だきしめこども園

園長 小林かおり

③浜松市 遊歩の丘はまなこども園

教頭 坪井 由香

議長 静岡市 一番町保育園

園長 海野美代子

助言者 常葉大学

准教授 中村 俊哉

記録者 三島市 梅の実保育園

園長 佐藤 悟郎

発表(一) 気づく・はぐくむ・つなぐ

静岡県御殿場市に拠点を置く社会福祉法人富岳会。今回は裾野市にある三園が中心となつて取り組んでいる関係機関との連携について発表が行われた。富岳会では幼児から高齢者、特別な支援が必要な方まで幅広い受け皿を用意されており、利用を希望する全ての方たちへ門戸を開いている。インクルーシブ保育を実践しており、個別に支援の必要な児童に対して必要な連携機関と職員を法人内に備えており、各職員がそれぞれの分野において十分に能力が発揮できる職場環境が整えら

れている素晴らしい内容だった。

発表(二) 新しい生活様式の中での新たな

ネットワークの築き方を考える

コロナウイルスの影響により様々な交流の機会が失われつつある昨今、だきしめこども園の先生たちは子どもの心を育むための出会いの場を様々な視点から見直し、積極的にアクションを起こしている。近隣小学校との接続や、地域高齢者とのふれあいの機会を確保するための考え方や実際の取り組みは高い関心を集めるもので、全ての地域で実践が可能な非常に素晴らしい発表内容であった。助言者の中村准教授からも、子どもたちの成長にとっても高齢者の方々にとっても有意義なものだと高い評価を得た。

発表(三) 未来につなげたい子どもの深い学び

遊歩の丘はまなこども園では、子どもの育ちを具体的にとらえていくために、地域や小学校との接続に力を入れており、アンケートを取ることで問題点の把握と具体的な対応を実践している点が発表のポイントであった。特に多くの関心を集めた点として、十の姿についての内容をポートフォリオ形式でまとめ、それを小学校と共有することで小学校側から入園前の子どもの育ちの状況が把握しやすいように配慮された取り組みについては会場の全ての人が耳を傾けた。

助言者より

全ての発表者の各園が「子どもの為」に様々な取り組みを行っている点を高く評価した。保育者はただ子どもたちと接するだけではなく、保護者、学校、専門機関と様々なネットワークとつながりながら子どもの育ちを見守ることの重要性を再確認し、各園の取り組みについて聞き入っていた。コロナ禍においては中々思い通りに保育ができない場面が多くあるなかで試行錯誤を繰り返す先生たちを労い、各園の取り組みについて意見を交換し合うことで学びの意欲が高まる非常に良い分科会であったと総評を述べた。



第六分科会

テーマ「食を営む力」の基礎を培う
食育の推進

発表者 ①清水町 しいの木保育園
主任保育士 関野 嘉子

②静岡市 みどりが丘こども園
副主幹保育教諭 杉村 邦子

③浜松市立三方原保育園
保育士 伊藤 恵子

議長 袋井市 ルンビニこども園
園長 岡田 泰稔

助言者 NPO法人こどもの森
理事長 吉田 隆子

記録者 御殿場市 すみれ保育園
園長 鷹野 一広

発表(一) 「食を営む力」の基礎を培う食育の
推進

「おもてなしの心を育てる」

「食」を真ん中に保育を進めれば「生き抜く力のある子」になる。幼児期の終わりまでに育ってほしい十の姿は「食」から学べる。考える。生活の全てが食育であり、特別な活動ができない中でも他愛のない会話や当たり前にしている活動にも意味があることを、言葉に心を添えて丁寧に関わることが大切だと実感した。活動は割愛されたが、ゆっくり子を見る為には必然な事であり、これからこそ

職域の壁を越え、お互いしっかり尊重し理解し合った中で、思いやりや感謝の言葉を伝え合いながら子ども達の成長を支えたい。

発表(二) 「食を営む力」の基礎を培う食育の
推進

「食育実践について語り合おう」「ねえ、みんな聞いて!」

食をテーマに「ねえ、みんな聞いて!」と仲間伝へたい子どもの姿を語り合う中で、皆で高め合う環境や風土作り、同僚性をもつと築いていけるように取り組んだ。栄養士や調理師の企画による食体験を通して安全でおいしい食を提供していきたいという思いや、保育士がもつ気持ちを楽に子ども達と一緒に食に興味や関心を深めていって欲しいという願いがあることを感じることが出来た。日々の保育に不安がある中だからこそ、子ども達と共に毎日に幸せを感じ、食から元氣をもらい食育の大切さを感じている。

発表(三) 「食を営む力」の基礎を培う食育の
推進

「地域の方と共に食を考える」知り
たい!食べたい!やってみよう!

浜松市立全園で行っている食育だよりの発行やクッキング等を工夫し、より丁寧に行っていくことにより保育士の食育の意識が高まった。地域の特産物に目を向けることで子ども達の興味が高まり、保護者との話題にも繋がることわかった。地域の方との交流により

「身近なものや出来事と関わる力」「人と関わる力」が伸びていき、食べることへの興味や関心が高まっていくことが成果として得られたのではないかと思う。

助言者より

三園の発表は基本的な事がきちんと捉えられていて、保育所保育指針・五領域・育ってほしい十の姿、それぞれに基づいた研究だった。「楽しく食べる」とは笑顔がある、つまり友達とおしゃべりしながら周りの人と関わっているからこそ「楽しい食卓」が成り立っている。今、第四次食育推進計画に於いて、これは令和三年～七年の五年の食育推進計画となる。重点項目は①生涯を通じた心身の健康を支える食育の推進、②持続可能な食を支える食育の推進の二点であり、特に②の「持続可能な」とはSDGs(十七の目標)が示され、これからはこの十七の目標を食育の中でどう取り組んでいくかを考えていく必要がある。



第七分科会

テーマ【保育の社会化に向けて】

～保育の営みをいかに社会に発信するか～

発表者 ①小山町立するがおよびまこども園

副園長 渡辺香代子

②磐田市 ひまわり保育園

副園長 山下 葉月

議長 静岡市 有度十七夜山保育園

園長 笠井 友泰

助言者 常葉大学短期大学部保育科

教授 鈴木久美子

記録者 静岡市 城北保育園

園長 松田 剛

発表(一) 保育の社会化に向けて

～保育の営みをいかに社会に発信するか～子どもの育ちを伝えて喜びを共有しよう

子どもたちの学びを伝える、子育てへの関心、地域に向けて、という三つの柱に基づき、子どもたちの育ちを見える化し、保護者、地域、小中学校に子どもの姿や遊びを発信していく。園内で起きた出来事を保護者と共有していくため、園だよりやクラスだよりは写真などをたくさん使うようにしたり、子どもたちが園での出来事を家庭で伝えやすくするため、ドキュメンテーションを活用したりして、わかりやすく伝わるような工夫をした。

また、平成二十二年から小山町内の公立園で始めた子育て通信は、町内の施設で配布され、今まで同じ悩みを持つ保護者にとって安心できる情報を提供することができている。これからは、時代の変化とともに、保護者がどのような情報が必要か、また、その情報を発信する媒体を工夫していきたい。コロナ禍の中、人との接触を行えない現状ではあるが、保育の営みを止めず、子どもたちの育ちを発信することは保育者の大きな役割であり、保育の発信をもとに、地域に根付いた園づくりが必要である。

発表(二) 地域社会への発信の試みと、

保護者への発信方法の改善

地域への情報発信の試みとして、紙面のお便りを不定期で発行していたが、アンケートの結果、子育て世代以外には、あまり重要性を感じてもらえず、読んでもらえていなかった。そこで、内容や発信方法について考え、多くの人に見てもらえるよう、園のホームページをリニューアルし、その中に子どもたちが地域の中で触れ合う様子を伝えるページを設けた。また、インスタグラム、ツイッターなどを活用し、写真や動画で紹介することにより、見やすく楽しんでもらえるようになった。保護者への発信方法の改善には、ホームページを活用し、ブログをリニューアルしたり、日々のドキュメンテーションの配信をしたり、園からの配布物が閲覧できるなどの改善を行った。保護者からは、写真や動画は非

常にわかりやすく見やすくなった一方で、個人情報管理や、手書きの連絡帳が減ったことへの不満が出てしまった。これからも保護者や地域の方の意見と聞きながら保育の営みを発信していきたい。

助言者より

とても刺激的な内容でした、年々本分科会の内容が非常に濃くなっていると感じる。保育の伝え方について当初は悩んでいたが、今ではドキュメンテーションの活用、SNSの利用、ホームページの充実など、伝える発信が日常業務の中で行われ、発信力を高めている。しかし、伝えることが主になってしまっていないか、伝えることの本質を忘れないで、保育のすばらしさを伝えてほしい。また、日々の業務に追われる中、現場で働く職員の負担も考えてもらいたい。伝えることが、見せることにならないよう、振り返りや検証をしていくことで保育の質を高めてもらいたい。コロナ禍の中で取り扱う分科会としてとても有意義な分科会でした。



第八分科会

テーマ【公立保育所・公立認定こども園等の使命と地域社会での役割】

発表者 ①沼津市立大平保育所

所長 佐藤 智子

②静岡市立用宗こども園

園長 青山 倫子

③浜松市立可美保育園

園長 森川 好美

議長 湖西市立鷺津保育園

園長 大久保加奈子

助言者 静岡英和学院大学

非常勤講師 徳浪 芳江

記録者 湖西市立新居幼稚園

教頭 鈴木真由美

発表(一) 地域社会に根差していくために
公立保育所がめざしていくもの

「いきいき暮らせるまち」を基に子育て支援、地域支援に取り組んだ。子ども・子育て支援事業計画と保育体制から公立保育所の使命を考え、保育所と地域とのつながりを大切にし、「幼児期の終わりまでに育ってほしいの姿」を意識しながら地域の中でできることを行った。直接触れ合う交流はできなくても連絡を取り合い情報の共有をしてきた。

SDGsを念頭に置き、行政や地域と情報を共有し協力し合い、子どもたちの明るい未

来のために地域に根差す保育所をめざしていきたい。

発表(二) 地域共生社会実現に向けた公立
こども園の役割と関連機関との連携
及び協働

地域住民が住み慣れた場所で支え合っていることのできる共生社会に向けて、住民及び関係機関との連携・協働し園の特色や地域性を生かした活動に取り組んだ。長田子育て支援協議会、高齢者との交流、地域社会における子育て支援を通して地域の良さを知り、人とのつながりを大切にしてきたことで、子どもを地域で育てるという風通しの良い関係ができた。

様々な関係機関と連携を図り、情報共有することで地域の方々安心して生活できるよう、また、子ども達が地域社会の方々に見守られ愛される存在となることを目指していきたい。

発表(三) 異言語家庭の子どもの保育と家庭支
援

「多文化共生」を踏まえ、異言語家庭の子どもとその保護者に対して、何ができるか考え、家庭理解に努めた。掲示の工夫、多言語通訳用タブレット端末の利用、浜松国際交流協会への研修参加を通してコミュニケーションを密にし、信頼関係を築きながら、保護者や子どもの気持ちに寄り添ってきた。

公立園の強みでもある行政との連携を大切

にし保育をリードする立場でありたい。これらは、異言語家庭に限らず、すべての子どもや保護者に関わる場面で共通する。保育士の意識を高め、保育の質の向上につなげていきたい。

助言者より

私たちは安全管理、感染症対策、防犯の徹底など様々なことをきっちりとする義務がある。その中で地域を生かし、子ども達にいろいろな経験をさせていくことが大事である。地域とつながっていくことで双方に良いことがあり、人と人との触れ合いの中で思いやりをもって接することが大切である。保育の質にこだわって何が育っているのか、地域や保護者にしっかりと伝えていく。

悩みや課題は園長会で共有し合いつながっていくことで保育の質が上がり、また一歩先につながっていく。公立園としてリードし責任を持ち、保育の質を高めていくとよい。



県保育研究大会に参加して

第一分科会

各園の発表を聞かせていただき、三園とも子ども一人ひとりの発達や生活、園児を取り巻く環境を真剣に見つめ、日々の保育が実践されていることを強く感じました。そして、その取り組みが保育者個人だけでなく、園として行動し、保育者としての専門性を高めているということに感銘を受けました。

最近では時代の流れや変化が速いですが、時代が変わっても子どもたちの育ちに大切なことは変わらないということを改めて感じさせていただける発表だったと感じ、これから大切にしていきたいと感じました。今回の研修で学ばせていただいたこと、感じたことを自園に持ち帰り、今後の保育実践に活かしていきたいと思います。

袋井八〇一こども園 鈴木 康

第二分科会

「配慮を必要とする子どもや家庭への支援」というテーマで各園の研究発表がありました。

「配慮の必要な子ども」と一言で表現しますが、実際は、その表れは多岐にわたり一人

ひとり異なり、援助の方法も一通りではありません。そのためにどの園でも対応に苦慮しているところだと思えます。今回の発表では、子どもを援助し、保護者を援助していくために園全体でどのように取りくむかを研究し、取り組んできた様子が発表されていました。

対象児童が気持ちよく園での生活を送るために園全体が協力をしてその子の情報を共有し、また家庭との連携を深める努力をしている様子がまとめられていました。実際に、配慮が必要な児童がお部屋に一人でもいる場合に担当の職員だけがその対応に悩み苦しむことがありがちと聞きます。対象児童に対してどのような支援が必要で、どのように対応していくのか、それは誰が動くのかを園全体で受け止め、対応を考えていくために、発表園それぞれの考え方で取り組まれていると感じました。視線を向ける方向で取り組み方が変わってくることも感じました。

配慮を必要とする子どもへの対応を考えることでそれ以外の子どもたちへの保育に対しても対応が変わってくることもあるかもしれない。と保育への視野の広がりにつながる研究でもあるのではないかと感じました。

上池さくらこども園 増谷 昌子

第三分科会

「保育者の資質向上を目指す」というテーマの発表を聞き、実習生受け入れが、保育者の保育・人間性を客観的に捉える場となり、学生が質の高い保育、保育者に触れる事で保育者養成にもつながるという相互のメリットがある事。また、「園内研修」の発表では共感できる事が多く、園全体の働きやすい環境と保育者自身が心から「楽しい」と思える、主体的な毎日こそが子ども達の為に重要であることを再確認できました。保育者が様々な経験・本物に触れ個々の感性・スキルを上げ、職員間で足並みを揃えて保育していく為により良い職場環境づくりを目指したいと感じました。

足久保こども園 鈴木 理恵

第四分科会

「地域の子育て家庭への支援の充実に向けて」をテーマとして、保護者の気持ちを支え、喜びを感じる子育てのための取り組みや、コロナ禍での新たな発信の取り組みが発表されました。新型コロナウイルス感染拡大により、感染予防とは言え今まで行われていた触れ合いを通しての支援がためらわれる状況の中でも密を避けて楽しめる工夫や、情報の提供など子育て家庭に寄り添いながら取り組まれた実践は、どれも子育て家庭の力になりたいと

いう思いが強く感じられました。自園でもできるところから取り入れていくと共に、地域の子育て施設と協力関係を整える努力をしていくことでより良い環境となれるよう働きかけていきたいと思えます。

麻機保育園 澤田 央規

第五分科会

『子どものより良い育ちにむけた関係機関とのネットワーク』をテーマに三つの園の発表を聞きました。コーディネーターの役割を持った職員が中心となって、どのように相談や提案、連携をとっていくかコーディネーターとしていき、就学につなげている『行政との連携、法人内施設との連携』、一年生のカリキュラムに幼児との交流を取り入れた『保幼小の連携活動』、高齢者施設との交流を実施している『遊びの会』保護者の声を大切にしながら、地域との交流活動を大切にしたり取り組みなど地域の特性を生かした連携の話を聞きコロナ禍でもできることを知り自分の園での取り組みのきっかけになりました。子どもへの育ちには地域や関係機関との連携がとても大切だと改めて感じました。

ひよこ保育園 村越 秀子

第六分科会

「食を営む力」の基礎を培う食育の推進を

テーマに発表がありました。コロナ禍でリスクや制限のある中でも、三園それぞれが歩みを止めることなく、おもてなしや職員間の語り合い、地域の特産物を生かすなど、豊かな視点で多岐にわたる活動を展開していました。食育といってもクッキングや栽培だけでなく、様々なアプローチの方法があることを目の当たりにし、食育の深さや可能性を改めて感じる事ができました。

園職員が持つ想像力。自園の持つ資源を広い視野で見て、自分たちに今何ができるのか。子ども、職員、保護者、地域と協同しながら、SDGsを意識した新たな時代の食育を考えていきたいと強く思いました。

竜南こども園 太田嶋俊彦

第七分科会

「保育の営みの発信」をテーマに、どちらの園も、子どもたちの学びを伝える発信、今の時代に合った子育て情報等、保護者へ向けての発信、地域に向けての発信と、それぞれに合わせた内容を考え発信をしていること、そして、写真を使った紙媒体のみならず、SNSなども活用していることが印象的でした。

現在、コロナ禍のために、保育の営みを発信することは、より注目され、どの園でも行われてきています。様々な形式での発信が当たり前になりつつある今、「保育の『見える化』が『見せる化』にならないように」と助言い

ただいたように、保育者が何の意図を持って発信するのか、改めて考えていかなければならないと感じました。

えじり保育園 井出孝太郎

第八分科会

公立園には、行政や専門機関と繋がり易いという利点があると同時にそれらの強みを役割として認識し、子育て支援の拠点として活躍されている各園の発表が印象的でした。地域との関わりや連携の強化が年間計画の行事や予定として組み込まれており、こども園を中心として日常的なものとして為されていることが発表から理解できました。

少子高齢化へと移行し続ける社会で孤立し易い子育て世帯や、コミュニケーションを取りにくい異言語家庭への支援への課題と取組を聴き、それぞれの家庭に園として何ができるのかについて参考になりました。また、日常的な保育の中で地域理解や関わりを増やしていく活動を広げていく必要性を感じました。

ほのぼの保育園 坂井 玄気



新規採用予定職員研修会

東部支部

期 日 令和四年二月十七日～十八日
参加者 四十八名

今年度はコロナ禍の新規採用研修会という事で初の全日程リモート研修となりました。会場の沼津プラザヴェルデ内からZOOMでの研修内容となり、参加者の顔がみれなかったことは残念ではありましたが、リモートならではの、チャットをつかったコミュニケーションやアンケート等から確かに受講している人たちがいる感覚をもちました。研修内容では、一日目は芸術をとりいれた講義内容となり、講師に常葉大学の長橋秀樹氏と武蔵野美術大学の松島誠氏による「乳児から幼児への発達段階における表現活動の意義」の講義を受けました。印象的だったのは、魚を自分の手に模して、筆でいろんな形に描きながら、一つの作品にしあげていく。なんだか、楽しく、子どもが実際にやったらどうなるの可想像すると実践したくもなりました。午後の講義では勝又ひで子先生による接遇講義「社会人として大切なこと」を受けました。「ありがとう」ひとつとっても、色んなバリエーションがある一方で、言葉にすることの大切

さや、最低限度の礼儀等を教えて頂きました。二日目の講義では、「保育園・認定こども園等にとって一番大切なこと」を県保連土山雅之会長、「あなたにとって一番大切なこと」を県保育士会吉川慶子会長より、それぞれ保育園、保育士の使命と役割、基礎知識を教えただきました。午後の講義ではNPO法人浜松こどもとメディアリテラシー研究所代表の長澤弘子氏による「SNS利用時の倫理的な判断と行動の重要性について」スマホやインターネットの活用方法やそれに注意する方法等についてお話を聞きました。SNSを使う事が今や当たり前になっていますが、周囲に発信する事への危険や注意点を改めて認識できました。最後の講義では、後藤実行委員長によるチャットや事前アンケートでの新規職員にむけての「現場からのアドバイス」と題してお話を聞きました。「現場での不安」や「対人関係」新しく新社会人としても当然の悩みや、現場でつかえるちょっとしたアイデア、考え方等の話をさせていただきました。今回の新規採用研修会では、直接顔がみれないこともありましたが、その後のアンケートなどで各講義の内容も含めて参加者からご意見をいただきました。ありがとうございます。その中で「やはり対面で会いたかった」等の意見もある一方で「集中して講義に

臨めた」等の意見もあり、リモート研修も研修会での一つのやり方なのだと思います。最後に、お忙しい中、快くご協力いただいた実行委員の皆様、講師の先生方におかれましても依頼を受けて頂き、改めて御礼申し上げます。ありがとうございました。

実行委員長

すみれ認定こども園 後藤恭佑

中部支部

期 日 令和四年二月十七日～十八日
参加者 五十三名

今年度は、コロナ感染対策として、リモート研修となりました。

講義一は、県保育連合会会長 土山雅之氏より、「保育所・こども園の使命と役割」というテーマで保育所の法的な位置づけ、社会的な使命について、また、現在保育所こども園が抱える問題などについてお話しいただきました。

講義二では県保育士会会長 吉川慶子氏より「保育者としての役割」というテーマで保育者としての服務規律や危機管理意識、コロナ禍における感染対策と保育の工夫、子どもの権利条約等についてご講演頂きました。

午後は、以前この研修に参加し現在春日保育園勤務一年目の都甲聖華さん、一番町保育園勤務六年目の馬場菜摘さんに、実際に保育

に関わつての体験談を聞かせて頂きました。

その後は明星保育園の櫻井英世先生の手遊び・歌遊びの実技指導がありました。リモートでの研修でしたが、画面越しの参加者の皆さんが、櫻井先生の真似をしながら手遊びなどに取り組み、笑顔も増えました。

布普及協会代表のさとうゆきこ氏の講義は子どもの成長発達とおもちゃを通じた保育者のかかわりや、実際子どもが遊ぶ姿などを見ることが具体的に学ぶことができました。

駿河子どもとも社取締役高林快晴氏より「子どもと絵本」というテーマで絵本の楽しみ方を、お話し頂きました。先生の読み聞かせ方や、実際お子様と楽しんでいた様子から、まず、大人が絵本の世界を楽しんで子どもと共有していくことが伝わりました。

土方良子先生によるご講義は、「保育士としての在り方」服務接遇、保育者として働くモチベーションの高め方等、一人一人が積極的に参加していけるよう、土方先生により声掛け、指導を頂き、コミュニケーション力がグンと高まりました。ワークアウトルームで、グループ討議も活発に行い、リモート研修であることを忘れるほどでした。

最後に研修委員が研修生の質問、疑問、不安などについてお話しする時間をもうけました。少しでも皆さんに役立てばと思います。四月から研修生の皆さんの力が大いに発揮できますように陰ながら応援しています。終わりに、講師の先生方や実行委員の皆様、リモート操作にご協力いただいた皆様のおかげで

新採研が無事に終了できましたことをここに感謝申し上げます。どんな時にも今できる最高のことを子どもたちと楽しみましょう。

実行委員長 一番町保育園 海野美代子

西部支部

期 日 令和四年二月二十一日～二十二日

参加者 八十五名

新型コロナウイルス感染症対策のため、Zoomを利用しての開催となりました。

一つ目の講義は静岡県保育連合会の土山雅之会長より「保育所・認定こども園の使命と役割」というテーマで講義を頂きました。静岡県保育連合会の活動や役割について学ぶ機会となりました。現在の保育業界は待機児童よりも少子化による定員割れの問題が大きくなっており、今後各園において、保育の質の向上が求められていることがわかりました。

二つ目の講義は静岡県保育士会の吉川慶子会長より「保育者としての自覚と責務」というテーマで講義をしていただきました。保育士会の成り立ちや全国保育士会や各支部を含む活動と役割について学ぶ機会となりました。また、保育者の倫理観について深く学ぶ機会となり、倫理観を高めるために先のことを見通すことや他者への理解が必要になることを学びました。

三つ目の講義は浜松こどもとも社の安田

友昭氏に「子どもと絵本をひらくとき」というテーマで講義をしていただきました。保育の中で欠かすことが出来ない絵本について、学ぶ機会となりました。

四つ目の講義は百町森の柿田友広氏に「子どもの成長と絵本・おもちゃ」というテーマで講義をしていただきました。絵本が入り口、おもちゃが出口となり、読んだ絵本の世界観をおもちゃで表現したり、遊びに展開されたりすることで、知能以外にも非認知能力の成長も促されると学びました。

五つ目の講義は有限会社アップハートの勝又ひでこ氏に「社会人として一番大切なこと～人間関係と服務接遇～」というテーマで講義していただきました。第一印象の大切さを学び、その為の基本は笑顔での挨拶であるとわかりました。今後は組織人としての振る舞いが求められること、チームプレーの重要性についても学ぶことができました。

最後の講義は浜松こどもともメディアリテラシー研究所の長澤弘子氏に「SNS利用時の倫理的な判断と行動の重要性について～最近のネット・ケータイ・スマホ～」というテーマで講義していただきました。インターネットのメリット、デメリットについて改めて知る機会となり、社会人としてのSNSの使い方を考えさせられました。

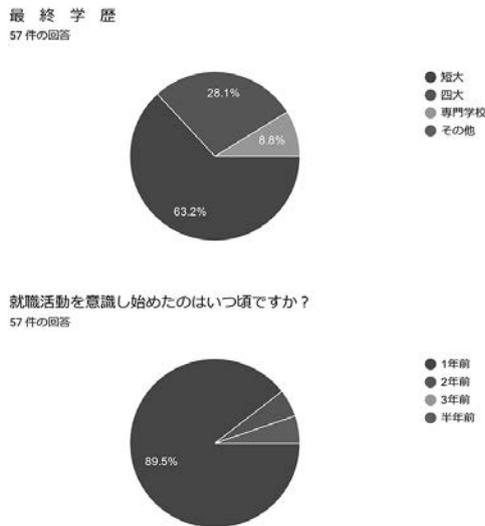
リモートでの研修ということで、難しい点はありませんでしたが、皆様のご協力により開催できたことに感謝申し上げます。

実行委員長 まつばこども園 山田佳敬

新卒採用者アンケート

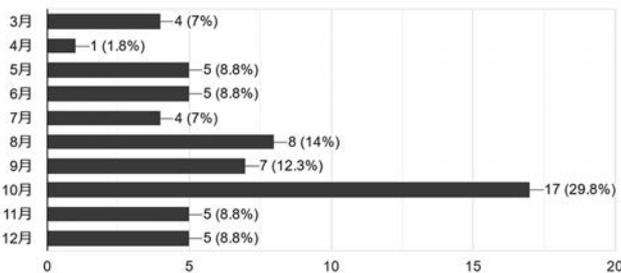
令和四年度新卒採用者を対象として「就職アンケート」を実施いたしました。このアンケートは、新規採用者の動向や現在の就職に向けた動きなどを調査したものです。以下アンケート結果になります。

今回アンケートにご協力いただいたのは新規採用職員研修東部支部の参加者五十七名の皆さんです。まず最終学歴については、六割が短大、三割が四大、一割が専門学校等と、近年、短大出身者が増加傾向にある。



また、「就職活動を意識し始めたのはいつ頃か？」という質問では一年前からが八割、二年前からと半年前からが一割となった。各月別では、十月が最も多く三割次いで、八月

実際に就職活動に動き出したのはいつ頃ですか？また、その理由もお聞かせください。
57件の回答

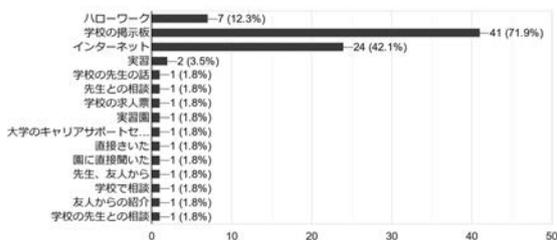


で一割弱となっている。上記の理由では、「コロナで実習が延期したから」「実習十月上旬まであったので実習が終わったタイミングで就職活動を始めた」「最終学年となり、周りの意識も高まってきたため」「夏休みの実習において就職したいと思ったから」等コロナに絡んだ理由が多かった。求人への参考にした媒体については、

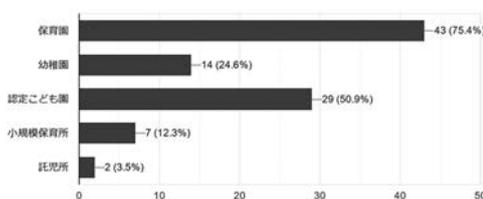
「媒体を使ったこと」が最も多かった。次に「学校の掲示板」が七割と多く、次いで、インターネットは三割となった。「媒体を使ったこと」という問いには、「求人票を見て、園見学に行った」「求人情報の確認（給与、休み、採用人数、募集期間等）」「園の特色や

待遇の違い」「保育士資格の活用方法について」「過去の倍率や志願者のコメントの閲覧」等園の情報収集が主に多かった。「就職活動中どのような施設を希望していたのか」については、保育園希望が全体の七割次いで、認定こども園、幼稚園となった。

求人への参考にした媒体は何でしたか？（複数回答可）
57件の回答



就職活動中どのような施設を希望していましたか？またその理由もお聞かせください。
57件の回答



理由は「実習を通して、保育園の雰囲気良かったから」「最初は幼稚園で働きたいと考えていたが、実習で保育園にも行き保育園を希望しました」「子どもの時に通っていた園に就職したかったため」等最後に「就職活動中に最も知りたかった情報は何か？」には「園の雰囲気や子どもの様子」が五割と一番多く、次いで、「職場の雰囲気や人間関係」「給料や待遇面」は前年度より二割程度増加傾向にあった。

令和二年度施設長研修会

期日 令和三年十二月十五日(水)
会場 清水マリナート 大ホール
参加者 二四四名

新型コロナウイルス感染予防を行いながら、久しぶりに多くの方が集まり研修が行われました。

開講式の後、十時四十分より十二時十分

講義①テーマ「清潔保育をやめないか？」

～Withコロナ時代の保育者へ～

講師 小児科医 山田 真氏

先生は、COVID-19は高齢者、基礎疾患のある方にとっては特に注意が必要なウイルス感染症であるが、日本における小児の発症の頻度は成人に比べ極めて低いことなどから、区内の医療機関と協力して保健所による積極的疫学調査で濃厚接触者と特定された職員及び園児の調査を行い、十分な感染予防を行っている施設では、園児がマスクを通常していないにもかかわらず保育施設での施設内感染のリスクは極めて低いと考えられる。等のお話をして下さいました。

昼食の後、十三時十分より十四時十分

講義②テーマ「保育情勢報告」

講師 静岡県保育連合会会長 土山雅之氏



- 1 保育行政の動向Ⅰとして予算関係(1)新型コロナウイルス対応(2)保育士処遇改善(3)今後の予算の見通し
- 2 保育行政の動向Ⅱとして制度関係(1)子ども庁の創設(2)連携法人について(3)地域における保育所・保育士の在り方に関する検討会の状況
- 3 人口減少地域における保育に関する課題として(1)出生人数減少の現実(2)課題と視点

以上のテーマでお話を頂きました。

休憩後、十四時二十分より十五時五十分

講義③テーマ「保育の質を高める働き方改革

～現場で実践していくために必要なこと～

講師 社会保険労務士法人 ワークイノベーション

～シヨン 代表 菊地加奈子 氏

- 1 保育士が仕事への誇りを持てる組織づくり(キャリアパスの重要性)
- 2 保育の質を高めつつ効率化させるためにできること
- 3 多様な働き方について考える
- 4 労務管理のポイント

以上のテーマでお話を頂きました。



閉校式を行い十六時終了

新規採用職員研修会

期日 令和四年五月二十三～二十四日
会場 静岡県総合社会福祉会館
参加者 六七名

昨年はコロナ対策のためオンラインでの開催でしたが、今年度は感染対策をしながら二日間にわたり、集合型研修として行われました。



1日目

講義①は静岡県保育連合会の土山会長による「保育園・認定こども園の使命と役割」というテーマでの講義でした。県保育連合会の役割や各委員会などについて説明があり、コロナ禍で保育を継続する必要がある重要な仕事であること、加速していく人口減少など保育を取り巻く環境の急速な変化への話などがありました。

講義②は静岡県保育士会の吉川会長による「保育者の使命と役割」というテーマでの講義でした。保育士会の組織や役割について、主催の研修では主に「保育の質の向上」を目標に行っているため、積極的に参加し、子どもたちの健やかな成長のために常に学ぶ気持ちを持ち忘れずに保育に取り組んで欲しいとお話がありました。

講義③は小田原短期大学名誉学長・名誉教授の小沼肇先生による「新人保育者の責任とプライドー責任重大!! かわいい子どもたちの人生がー」というテーマでの講義でした。先生自身が体験をした話を織り交ぜながらの、子どもに対する温かい眼差しを感じる内容で、一人ひとりの個性を大切にしながら保育と支援をしていく必要性を改めて気付かされる話でした。

講義④はNPO法人浜松子どもとメディアリテラシー研究所の長澤弘子代表による「SNS利用時の倫理的な判断と行動の重要性について」というテーマでの講義でした。SNSの利用について、社会人として節度を持った使用をしなければいけないこと、情報が独り歩きすること、忘れず、便利さと危険が隣り合っていることを理解して運用すべきと改めるお話でした。



2日目

講義⑤は株式会社駿河こどもとも社取締役の高林快晴氏による「子どもと絵本」と題しての講義でした。「上質な絵本」の読み聞かせをとおして身近な人と過ごす喜びを感じ

じ、気持ちが通じあい、愛情や信頼感が生まれるというお話でした。

昼食前に実行委員長の中村先生による、グループワークをとおして悩みや疑問を共有し明日からの保育につながる討議の時間を過ごしました。

講義⑥はコーチングネットワーク静岡代表の土方良子氏による「保育者としてのあり方〜服務接遇〜」と題しての講義でした。学生と社会人の違いを認識し、時間を大切に相手に伝わる努力をすること、個人とチームの大切さ、価値観を尊重する姿勢、自分の良さに気づくことで周りの人の良さに気づく、など、社会人として必要な心構えについてのお話でした。最後に「終わり方を丁寧にする」ことを忘れず大事にして欲しいとお話をいただきました。

閉講式では実行委員長の中村先生より高い専門性と倫理観を維持するため常に学び続け、今回の研修で得た気づきや学びをすぐ明日からの保育に取り入れ、回りの人に伝える努力をしてほしいとお話をいただきました。二日間の研修を締めくくりました。



青年部会総会・研修会

期日 令和四年六月十日（金）
会場 県総合社会福祉会館

今年度の青年部会総会と研修会は久しぶりの現地開催として、直接会員の皆さんとお会いできるものとなりました。総会では、県保育連合会会長の土山雅之先生より、コロナ禍における保育業界についてや法人化についてのお話、来賓の細野豪志議員からは「少子高齢化の世の中で今まさに子どもを中心にいる皆さんの時代がやってくる」等のお話をいただき、また部会長の後藤先生からは、「持続可能な組織として皆さんと一緒につくってきたい」、今年度の青年部会は新たに「サードブレイス」という考えを提唱、職場でも家



庭でもない第三の場所をつくっていききたい等のお話をさせていただきました。また今年度の総会後の研修会は二部構成で開催、研修①では行政説明、研修②では講師による研修会を開催いたしました。研修会①行政説明では厚労省子ども家庭局保育課の香取課長補佐、田野課長補佐様よりコロナ情勢や、補助金等についてまた子ども家庭庁についてもふれていただきました。特に保育士の処遇や人材確保とICT化を利用した業務改善は印象的でした。



研修②では、講師に接客向上委員会&Peace代表の石坂秀己先生にお越しいただいて、「ディズニー流 人が育つ風土作り」を

テーマにご登壇いただきました。石坂先生は、東京ディズニーランドのアトラクションの責任者として約十五年勤務し、接客研修の基礎を築き上げ退職後、アミューズメント業界の人材派遣会社にてさらに実績を積み、これまでの豊富な経験を活かし、「接客基本研修」コミュニケーション研修」等を行っています。人材育成の話の中で、「わかりやすいことはを使う」ほ



める認める風土」をつくる事を前提条件として、できるようになることよりも「行動する軸」をつくる事。たいていせつなのは、関係性の構築という冒頭の話から園だけではなくこれからの組織、青年部会としての在り方にも共通する話だなど思いました。

最後にコロナ禍の今だからこそ、選択肢をひろげ、青年部会は元より、会員の先生がたにも、愉しさ嬉しさをもっと発信し共有すること、それこそが、持続可能な組織として大切なのだと改めて感じました。

～活動の報告と計画～

予算対策委員会

委員長 中里保育園 青野貴芳

令和四年度に入り、一般的なコロナ対応は徐々に緩和されていますが、保育所等では依然として感染者が出ており、対応に追われている状況です。

いつ終わるか分からない状況に苦慮しつつも、各施設は、地域で最も身近な子育て支援の拠点として日々奮闘していることは、みなさまご承知の通りです。

県保育連合会は、次の十一項目を静岡県に對して要望しています。過年度と変わらない内容も多くありますが、未だ実現していないものなので、粘り強く要望していきます。

- ①保育標準時間認定児の保育利用時間の長時間化に對した職員配置の改善を要望します。
- ②乳幼児保育事業の充実及び四・五歳児の職員配置の改善を要望します。
- ③調理員の配置数の改善について要望します。
- ④園児数の減少、定員割れへの対応について要望します。
- ⑤物価高騰への対応について要望します。
- ⑥保育士確保及び定着促進のための環境改善支援策を要望します。
- ⑦年度途中入所サポート事業の継続について要望します。
- ⑧保育体制強化事業と保育補助者雇上強化事業の継続的な運用を要望します。
- ⑨南海トラフ地震等大震災に對する安心・安全な施設の充実が図られるよう要望します。
- ⑩新型コロナウイルス

感染症対策について、状況に応じた支援を要望します。⑪産休等代替職員雇上事業の補助基準額の増額について要望します。

加えて、保育三団体の予算対策活動に参画し、国に對して要望をしています。

海外交流委員会

委員長 一番町保育園 海野美代子

少しずつ、海外への訪問、観光ができるようになってきましたが、今年度も海外への研修は難しいです。そこで国内へ目を向け、年度内に行えるよう現在訪問地を検討中です。

国内の観光ができるようになり、季節によっては、移動手段の確保が困難なところもあり、委員会や県保連のアドバイスをいただいているところです。

この視察研修で大切にされているところは、保育の場を視察するとともに、その国の教育にかかわる行政との話し合いが中心にあります。お国柄を知り理解するには、その国の人と出会い、生活を知り、空気感を感じることが大切な研修です。世界各地での感染が収まり、従事されている方、病の後遺症にいらる方々が癒され、訪問がかなうことを祈るばかりです。

少子化対策委員会

委員長 一番町保育園 海野美代子

保育所・認定こども園利用者以外に、子育て支援への関心と理解を求める啓発活動を行った場合の経費（一事業五万円）を助成する「子育て支援啓発活動事業助成金制度」を実施しています。これは複数の施設や団体で行う事業であれば、民間園や公立園の区別なく、また、保護者会等の団体でも助成対象としてあります。各支部三事業（十五万円）の予算を組んでおりますので、この助成金を活用したい団体は、各支部事務局にご連絡ください。

啓発品については「あいあいホットマーク」のクリアファイル（こちらは、保護者の皆さんへの年度当初の書類配布や、入園案内などに添えてお渡しするなど活用していただいております）、現在新しい色を検討中です）、ピンバッチ、付箋セットがあります。啓発活動の助成が幅広く行えますよう、皆様のご協力を宜しくお願いします。

研修委員会

委員長 野中こども園 中村章啓

今年度も感染症対策として、研修委員会で企画する事業はリモート開催（あるいは併用）を視野に入れて検討していますが、幸いにも、

所長研修会（総会時）および新採研修（本部会場）は参集開催することができました。今後オランダデマンド配信や、ハイブリッド開催等も併せて検討していく予定です。

所長研修会には、文科省・幼児教育と小学校教育の架け橋特別委員会委員の宮下友美恵氏（静岡豊田幼稚園園長）をお招きし、幼小接続に係る実際の取り組みについてご講義いただきました。

新採研修（五月）では、百名近い参加者が、保育所・保育士の使命と役割、SNS利用時の倫理的判断、接遇等について学びました。今年度内に計画されている研修会は次の通りです。

○民間園長研修会

（十一月二十一・二十二日）

○施設長研修会（十二月九日）

○育児相談研修会（十二月十五日）

○新規採用予定職員研修会（二月）

キャリアアップ委員会

委員長 聖心保育園 吉川慶子

静岡県保育士等キャリアアップ研修は今年度も静岡県から委託を受け、六月二十一日第一回目の「乳児保育」の分野からスタートとなりました。

昨年度は感染状況に左右され日程の変更等

余儀なくされました。今年度も引き続き感染防止対策を取りながら、基本参集型での開催となります。

受講される方が、自身のキャリアパスのために必要な研修受講に対し「自ら深く学ぶ」意味を再認識していただき、自身の学びを日々の保育に還元していただけることを願っています。また、受講に際して書類等の不備が無いよう、各施設担当者様にご配慮いただけますようお願いいたします。

広報委員会

委員長 城北保育園 松田剛

今回、保育川柳を皆さんに募集しました。素晴らしい作品をいただきました。ありがとうございます。これからも続けて行きたいと思っております。皆さんからのたくさんの応募を待っています。

コロナ禍での生活も三年目を迎え、段々普通の生活を取り戻しつつあります。研修会は、WEB研修から対面式の研修に変わり、研修会の報告を今までのように出来ることに喜びを感じます。コロナ禍の中で皆さんが取り組んだことや新しい発見がなど、これからもたくさんさんの情報発信していきたいと思えます。広報委員会では、これからも新しい企画を募

集しておりますのでご意見、ご感想をお寄せください。

青年部会

部会長 すみれ認定こども園 後藤恭佑

研修会やイベントが少しずつですが、対面式で開催されるようになってきました。青年部会においても今年是对面での総会や各研修なども計画していこうとおもっています。コロナ禍からもうすぐ3年目をむかえようとしています。これまでの経験をいかして、より積極的に活動をしていこうとおもいます。その初めとして、今年の青年部総会是对面式での総会を開催することができました。また、一部研修ではリモート研修をとりいれながらおこなったり、充実した総会になったように感じます。

コロナ禍においても、幼児教育、人材確保、待機児童問題等々、問題は山積みですが、コロナ禍で経験したものは、貴重な財産のようにも感じます。それらを生かしつつ、組織としても個人としても、向上できるように精進して参ります。どうぞ、皆さん、よろしくお願いたします。



東部支部

支部長 中里保育園 青野貴芳

一、総会及び施設長研修会

期日 令和四年五月十二日(木)

会場 プラサヴェルデコンベンションホールB

講師 稲場雅紀氏(日本国際保健市民社会
団体ネットワーク代表)

二、中堅保育者研修会

期日 令和四年八月二十三日・二十四日

会場 プラサヴェルデコンベンションホールB

テーマ 「ドキュメンテーションの基礎と活用」
―記録するたのしみとよろこび―

講師 中村章啓氏(野中こども園副園長)

テーマ 「愛と感受性を育てる自然遊びのすすめ」

講師 山田辰美氏(常葉大学名誉教授)

テーマ 「IからWEにつながるリーダーシップコミュニケーション」

講師 松原美里氏
(保育コミュニケーション代表)

三、新規採用予定職員研修会

期日 令和五年二月十六日～十七日

会場 三島市立少年自然の家

講師 未定

四、保育の日研修会

中止

五、民間部会

未定

六、行政部会

書面決議

七、青年部企画研修会

未定

中部支部

支部長 一番町保育園 海野美代子

一、総会及び施設長研修会

期日 令和四年五月十三日(金)

会場 静岡県総合社会福祉会館

講師 静岡県立大学短期大学部
部長 永倉みゆき氏

二、職員研修会

期日 令和四年六月七日(火)

会場 ポリテクセンター静岡

講師 (一社) 布育普及協会
代表 さとうゆきこ氏

テーマ 「ごっこ遊びと布おもちゃ」

三、中堅保育者研修会

期日 令和四年九月十六日(金)

会場 静岡県総合社会福祉会館

講師 保育環境アドバイザー 井上さく子氏
テーマ 「子どもの健やかな成長をささえるのが私達です」

四、職員研修会

期日 令和四年十月十九日(水)

会場 ふじのくに地球環境史ミュージアム

講師 インタープリター坂田尚子氏 等
テーマ 「五感を磨き、高い感性の保育者を
目指して」

五、新規採用予定職員研修会

期日 令和五年二月十四日～十五日

会場 焼津青少年の家

西部支部

支部長 ルンビニこども園 岡田泰稔

一、総会及び施設長研修会

期日 令和四年五月十八日(水)

講師 教育評論家 尾木直樹氏

テーマ 「コロナ時代を生き抜くチカラ
～みなさんと一緒に考える～」

二、中堅職員研修会

期日 令和四年六月二十七日(月)

講師 株式会社集中心力
代表取締役 森健次朗氏

テーマ 「一流アスリート達が実践する心と
身体が元気になる方法
～職場が明るく前向きになる
具体的な考え方とやり方～」

三、男性職員研修会

期日 令和四年八月二日(火)

講師 静岡ブルーレヴズ 育成普及スタッフ

四、小児医療研修会

期日 令和四年九月頃 内容未定

五、初任職員研修会

期日 令和四年十二月六日(火)

講師 絵本・あそび作家 浦中こういち氏
内容 未定

六、新規採用予定職員研修会

期日 令和五年二月
二十一日(火)～二十二日(水)

会場 三ヶ日青年の家

各支部だより

保育川柳入選発表

静岡県保育連合会

会長賞

佳作賞

●飛沫浴び

コロナに感染 非難浴び

●登園前

せめてオムツは 替えてこい

●オムツがえ

している自分も オムツじい

●大好きと

胸に飛び込む 幸せよ

●また明日

期待を胸に 手を振る子

●かががいた

パチンとたたく

小さな音(ね)

●くしゃみ聞き

ティッシュ取りに行く 一歳児

●これ誰の〜?

匂いでわかる 個人の持ち物

富士市 わかば保育園

石川美佳 様

目を見つめ

笑顔読み取る 子の力

講評

・コロナ禍でマスク越しに接する中で、子どもが目元だけで笑顔を理解してくれている感動が上手に表現されていると思います。
・コロナで制限が多く暗くなりがちですが、この句からは子どもの力強さや可能性が感じられ、明るさがあつて素敵だと思います。
また時事的な要素もあつて、いいと思います。

保育川柳作品募集中

ここから
応募できます



保育川柳
募集フォーム

★ 募集のテーマ

保育士のみなさんが日頃、保育の現場で感じたことや面白エピソード等



応募方法 ※応募作品、氏名、住所、勤務先、電話番号を記載（勤務先は任意となります。）

※申込みは左記のQRコード（バーコード）からになります、携帯・スマホからQRコードを読み取ってグループフォームに移動し必要事項を入力の上、送信してください。

応募要領

- 県内在住の会員園職員の方。
- ◎応募作品は自作のもので未発表のもの

園と園児のリスクに漏れなく備えていますか？

園経営には、さまざまなリスクが伴います。
公益社団法人全国私立保育連盟指定代理店である(有)ゼンポでは、園経営はもちろんのこと、園児をとりまくリスクに関する各種保険を取り扱っております。

ほいくのほけん・ こどもえんのほけん

4月1日～1年間
(中途加入可能)

「園賠償責任保険（新型コロナウイルス等対応費用補償特約付帯）」「園児団体傷害保険（学校契約団体傷害保険特約付帯傷害保険）」など、園経営における従来のリスクに加えて新型コロナウイルス感染症にも対応する保険をご用意しております。

やくいんのほけん

8月1日～1年間
(中途加入可能)

社会福祉法人の役員の業務遂行に関する賠償リスクとレピュテーション（風評被害）リスクに加えて雇用関連トラブルによる法人への賠償リスクもオプションで対応する保険となります。

上記以外にも、「学童保育」などの保険も取り扱っております。

まずは**有限会社ゼンポ**まで
お気軽にご相談ください！

TEL **03-3865-3881**
FAX **03-3865-2806**

〈連絡先〉

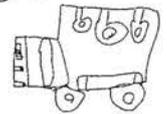
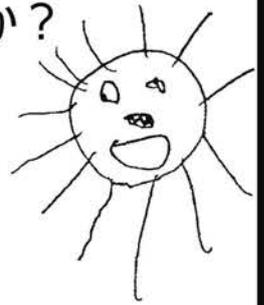
公益社団法人全国私立保育連盟指定
東京海上日動火災保険株式会社代理店
〒111-0051 東京都台東区蔵前4-11-10 全国保育会館内
TEL 03-3865-3881 FAX 03-3865-2806

有限会社ゼンポ

〈引受保険会社〉

東京海上日動火災保険株式会社
担当課：公務第二部 文教公務室
TEL 03-3515-4134

このご案内は施設賠償責任保険・生産物賠償責任保険・学校契約団体傷害保険特約付帯傷害保険・会社役員賠償責任保険・レピュテーション費用保険（レピュテーション費用特約条項付・費用・利益保険）・雇用関連賠償責任保険の概要についてご紹介したものです。保険の内容は本保険制度のパンフレットをご覧ください。詳細は契約者である公益社団法人全国私立保育連盟にお渡しする保険約款によりますが、ご不明点がありましたら、取扱代理店または保険会社までお問い合わせください。また、ご加入にあたっては、必ず「重要事項説明書」をよくお読みください。



連絡先



公益社団法人全国私立保育連盟指定／東京海上日動火災保険株式会社代理店

有限会社ゼンポ

TEL **03-3865-3881**
FAX 03-3865-2806

〒111-0051 東京都台東区蔵前4-11-10 全国保育会館4階

子どもの育ちが見えれば、明日の保育がもっと豊かに！

全国私立保育連盟推奨（総代理店）

導入費用
無料



きっずノート

「きっずノート」は、文字だけでは伝えきれない園での豊かな活動、子どもたちが自ら学び・育つ姿を「見える化」するアプリです。

保育者の
業務
省力化

子どもの
学び・育ちの
見える化

緊急時の
連絡手段

正式利用お申込みの全施設

最大9ヵ月

利用料無料！

契約更新後も料金そのまま！

年間一括利用料6万円

利用しやすい価格に
なりました！

ひと月
あたり **5,000円** (税別)

※ただし、事業者利用規約の定めにより、将来において利用料金が変更になる可能性はございます。

詳しくはお問い合わせください。

<担当者:菅沼、佐藤>

紙から創る、コミュニケーション

<http://dainichi-p.co.jp>



アートブロックメモ

カットメモ

ポップアップメモ

ふせんの缶詰

お絵描き帳



自社製造のメモ帳専門メーカーメモ工房。販促、ノベルティに最適なメモのことなら大日三協(株)のメモ工房へ！

大日三協株式会社

静岡県静岡市葵区流通センター12-1
TEL:054-263-2435(代)・FAX:054-263-2409

他にも色々なメモ帳をご用意！

メモ工房

検索



さまざまな危険からお子さまをお守りする

2022年1月現在の内容です。

『キッズガード』(園児総合保障制度(こども総合保険))

AIG損害保険株式会社

日々大きく成長されるお子さまたちの行動には予測できないことも多く、何かとお心づかいのことと存じます。いつ、どこで何が起こるのか予想もつかない事故の、確かな“おまもり”として本制度をお届けいたしております。

S-220577(202308)

静岡支店	〒420-0851 静岡市葵区黒金町20-1 富士火災静岡ビル5階 Tel: 054-255-5141
浜松支店	〒430-7715 浜松市中区板屋町111-2 浜松アクタワー15階 Tel: 053-454-0321
沼津支店	〒410-0801 沼津市大手町2-10-14 Tel: 055-963-8081

未来は、あそびの中に。



JAKUETS



さあ、ワクワク探しの旅に出かけよう！ www.tobutoptours.co.jp



“Warm Heart”
～ありがとうの連鎖を～



東武
トップ
ツアーズ

静岡支店

〒420-0859

静岡県静岡市葵区栄町3番1号

あいおいニッセイ同和損保静岡第一ビル10F

TEL.054-255-1919 FAX.054-252-9509

OA機器・システム商品・オフィス家具

経費削減のお手伝い

見積・相談無料



株式会社 Net



Net 沼津

検索

TEL 055-939-6100

沼津市米山町 12-15

PAL ANGEL
園児支援システム

子ども・子育て支援制度対応・ICT補助金対象システム

「PAL ANGEL (パルエンジェル)」

ICカードで簡単操作の登降園管理、園務日誌、保育計画、報告書等、多様化する 保育園の事務作業をサポートいたします。クラウドサービスで安心です！

園の紹介、情報公開は簡単便利な
ホームページで！
「らくらく更新web」

苦情解決、事業報告、行事予定、アルバム等が
園のパソコンで簡単に更新できます！

簡単操作のメール配信システム
低価格で多機能！
「チェックインシステム」

緊急連絡他、アンケート調査、質問回答集計、閲
覧状況、受信状況も把握できます！



株式
会社

データサービスセンター

〒411-0912 駿東郡清水町卸団地63-2
TEL:055-972-7717 FAX:055-976-1057

<http://www.dataeast.co.jp> E-mail:h-sanada@dataeast.co.jp

しずおか保育士・保育所支援センターでは、 保育の仕事を探している方と 人材を求めている保育所との 橋渡しをします。

静岡県・静岡市
委託事業

求職者との個別相談、園の見学や体験事業、就職フェアやセミナーなどを通してお仕事の紹介をしています。



ネット経由による
求人登録のメリット

全国の貴園・貴事業所に興味のある方が求人を
24時間いつでもみることができます。



福祉のお仕事
ホームページ

「福祉のお仕事」からインターネット
経由で求人申請ができます。

<https://www.fukushi-work.jp/>



お問い合わせ・ご連絡

福祉人材無料職業紹介所・厚生労働大臣許可



社会福祉法人
静岡県社会福祉協議会

中西部

静岡県社会福祉人材センター
しずおか保育士・保育所支援センター

TEL. 054-271-2110

- ☎ 〒420-0856 静岡市葵区駿府町1-70
静岡県総合社会福祉会館「シズウエル」3階
- 🕒 【開所】月～金曜日(8:30～17:00) ※祝日除く

東部

静岡県社会福祉人材センター
東部支所

TEL. 055-952-2942

- ☎ 〒410-0801 沼津市大手町1-1-3 沼津産業ビル2階
- 🕒 【開所】月～金曜日(8:30～12:00/13:00～17:00)
※祝日除く



しずおか保育士・
保育所支援センター
ホームページ

編集後記

五類にならないかなあ！

御殿場市 すみれこども園 鷹野一広
まだまだコロナ前の状況に戻りつつ、しかしまだまだ変わらないことに疲れますが、頑張ります。

静岡市 城北保育園 松田 剛
八九号が無事に発刊出来て良かったです。暑期中、皆さんお疲れ様でした。

静岡市 有度十七夜山保育園 笠井友泰
編集に遅れてすいません。どうにか間に合いました。

静岡市 草薙ふたばこども園 市川千暁
第八九号も、他の広報委員会のメンバーに支えられて、わずかですが、広報誌発行のお手伝いがよかったです。

静岡市 ほのぼの保育園 坂井玄気
各行事・イベントが復活してきて、子どもたちの得られる体験も増えてきましたね。

島田市 認定こども園 エルフのゆめ
プールから歓声と水しぶき！二年ぶりの光景に心が躍りました。もうコロナは…

浜松市 まつばこども園 山田佳敬
パワプロで子どもにボロ負けするようになりました(涙)。

掛川市 葛ヶ丘保育園 相馬良正
なかなか参加できずに、みなさんに助けていただきました。ありがとうございました。

湖西市 真愛三ツ谷こども園 松浦弘太郎
だんだんと慣れてきましたが、まだまだ臨機に弱いです。

富士市 すみれ認定こども園 後藤恭佑
暑さに負けるな！！
伊豆の国市 慈恩こども園 土山龍之
当たり前が当たり前にならない！早く元の生活に 子供の笑顔を見たい！
御殿場市 神山認定こども園 本崎泰人

わんぱくひろば



「ほいく静岡」原稿写真募集中

保育実践・研究の紹介や育児相談・講座の紹介など奮ってご寄稿下さい。

✉ 投稿先 静岡県保育連合会

〒420-0856 静岡市葵区駿府町1番70号

TEL : 054-251-8873